

『神奈川県レッドデータブック2022 植物編』が刊行されました

たなか のりひさ
田中 徳久(学芸部長)

はじめに

2022年3月31日、『神奈川県レッドデータブック2022 植物編』(神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館編, 2022; 以下『神RDB22 植物』と表記(図1))が刊行され、同時に神奈川県のウェブサイト内(<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/t4i/cnt/f12655/p1197000.html>)でもPDF版の公開が開始されました。

レッドデータブックとは

「レッドリスト」の用語の使用は、1966年にIUCN(国際自然保護連合)が作成した『IUCN Red List of Threatened Species』から使われ始めたものです。その後、地形や地名などを対象としても使用されています。「レッドデータブック」は、「レッドリスト」に選定された対象について、生態・生育状況・存続を脅かす要因等の解説を付したものです。

神奈川県のレッドデータブック

神奈川県の生物については、これまで『神奈川県レッドデータ生物調査報告書』(神奈川県レッドデータ生物調査団編, 1995; 以下『神RDB95』と表記)と『神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006』(高桑ほか編, 2006; 以下『神

RDB06』と表記)の2編のレッドデータブックが刊行されています。これら2編は、当館の総合研究等の成果としてまとめられたものでしたが、今回の刊行された『神RDB22 植物』は、自然環境保全課が、レッドリスト掲載種の選定(植物分野では2020年10月に公開; <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/t4i/cnt/f12655/p1196500.html>)から、レッドデータブック作成までを事業化したもので、植物分野から始まり、昆虫や脊椎動物などの動物分野へと順次進める計画です。当館は、学芸員が各専門分野の評価選定委員として協力し、『神RDB22 植物』では、植物担当の学芸員が執筆に関わっています。館の研究成果として刊行された前2編も神奈川県のレッドデータブックとして関係方面で広く活用されてきましたが、今回刊行された『神RDB22 植物』は行政的な成果物でもあり、ウェブサイトで公開されていることも合わせ、今後の神奈川県における生物多様性の維持、保全にさらに有効に利用されることが期待されます。

植物編の対象と概要

植物分野については、『神RDB95』では維管束植物のみが扱われましたが、『神RDB06』ではコケ植物、菌類、植物



図1. 『神奈川県レッドデータブック2022 植物編』。

群落が加わり(菌類は厳密には「植物」ではありませんが、ここでは植物に含めています)、『神RDB22 植物』では植物群落は扱われませんでした。淡水生の一部の藻類そうるいが加わりました。一部とは言え、藻類の評価は神奈川県では初めてのものになります。全国的に水辺環境の劣悪化や生育環境自体の消失が顕在化中、他都道府県でも評価対象となることが多く、神奈川県においても、評価対象分類群となったものです。これら



図2. サガミジョウロウホトギス(ユリ科). 2003年9月9日 秦野. 撮影: 勝山輝男。



図3. キソエビネ(ラン科). 2006年7月4日 箱根. 撮影: 勝山輝男。



図4. イズアサツキ(ヒガンバナ科). 2019年6月3日 三浦. 撮影: 田中徳久。

の分類群のうち、維管束植物とコケ植物については、県内の相調査(リスト化; インベントリー調査)がほぼ完了していますが、菌類については、近年の進捗に著しいものがあるとは言え、まだまだ未記載種、未記録種が頻出するのが現状ですし、藻類は過去の記録を検証する間もなく、生育環境の悪化が著しい側面があります。これらの分類群では、レッドリスト選定に関する調査が、貴重な相調査の機会となっているとも言えます。

3編のレッドデータブックそれぞれでカテゴリーや評価基準に違いがあるものの、維管束植物では、回を追うごとに選定種は増え、神奈川県に自生する植物2,199分類群(種内分類群含む; 以下同様)の36.4%に相当する800分類群がレッドデータ植物に選定されました。コケ植物では県内産661分類群の12.7%に相当する84分類群が選定されましたが、前回の評価は過大評価であったとされ、絶滅危惧Ⅰ類が減り、絶滅危惧Ⅱ類や準絶滅危惧種が増えました。藻類は過去との比較は出来ませんが、18分類群が選定されました。菌類では従来の各カテゴリー、新設の注目種を合わせ103分類群(他に情報不足が19分類群)が選定され、その数は大きく増えましたが、前述のように相調査の進捗によるところが大きいようです。

維管束植物の選定種

維管束植物は800分類群が選定され

ました。生育環境別には、「森林」がもっとも多く、「湿地」、「草地」と続き、この傾向は『神RDB95』以来変わっていません。また、存続を脅かす要因としては、もともと分布が限られていたり、個体数が少ない「産地局限」がもっとも多く、次いで生育地そのものが開発などで失われる「土地造成」、遷移の進行により生育環境が失われる「自然遷移」と続いています。選定種のいくつかを紹介します。

サガミジョウロウホトギス(図2)

絶滅危惧ⅠB類。生育地が限定的で脆弱です。神奈川県固有種です。

キソエビネ(図3)

絶滅危惧ⅠA類。丹沢での古い記録がありますが、現在では箱根のみで確認されています。

イズアサツキ(図4)

絶滅危惧ⅠA類。県内の海岸風衝草原に生育する植物のうちでもっとも絶滅が危惧されます。

センダイタイゲキ(図5)

絶滅危惧ⅠA類。2013年に県内での分布が初めて確認されました。

ルリソウ(図6)

絶滅危惧ⅠA類。近年減少傾向が強く、1ヶ所のみで確認されました。

オカオグルマ(図7)

絶滅危惧ⅠB類。丘陵地や山麓の管理された土手などに生育しますが、生育適地が減少しています。

おわりに

神奈川県レッドリスト評価選定委員会と同植物・菌類部会の委員の方々と自然環境保全課の新旧担当である須藤貴志氏と古川 拓氏に感謝の意を表します。なお、本稿をまとめるに際し、筆者の担当分野である維管束植物の内容が多くなりましたが、お許しください。

神奈川県のレッドリスト選定とレッドデータブック刊行事業は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり遅れていますが、引き続き昆虫類・クモ類編の調査が始まっています。本事業が、今後の神奈川県の環境行政の一助になることを期待します。

参考文献

- 神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館編, 2022. 神奈川県レッドデータブック 2022 植物編. 438 pp., 16 pls. 神奈川県, 横浜.
- 神奈川県レッドデータ生物調査団編, 1995. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書. 神奈川県立博物館調査研究報告(自然科学), No. 7. 257 pp., 8 pls. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 神奈川県レッドデータ生物報告書2006. 442 pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.



図5. センダイタイゲキ (トウダイグサ科). 2015年4月14日 大和. 撮影: 田中徳久.



図6. ルリソウ (ムラサキ科). 1986年4月27日 横浜. 撮影: 勝山輝男.



図7. オカオグルマ (キク科). 2020年4月21日 秦野. 撮影: 田中徳久.